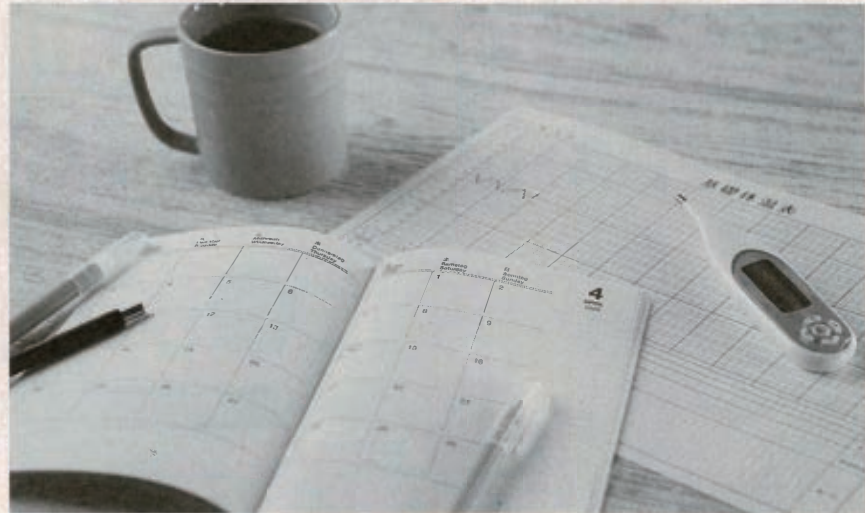


「シリンジ法を知ってから、妊活が格段に楽になりました」
 こう話すのは、都内で5歳の長男を育てながら働く女性(39)。現在、2人目を望んで妊活中だ。「正直に言えば、セックスが苦手」という女性。長男を妊娠する前は、しないことには、子どもはできないんだから頑張るしかない、と自分を奮い立たせ、子どもが欲しいという一心でちょっと無理して妊活していた。排卵のタイミングを狙って性交する「タイミング法」を1年半続け、長男を授かった時は、「これでしばらくセックスしないで済む」と安堵したという。

女性が再び妊活と向き合うことになったのが、2人目を考えるようになった時のこと。女性は産休育休を経て、2年前に職場に復帰し、仕事と子育ての両立に奮闘している。フルタイム勤務しながらの子育てで、長男を寝かしつけながら一緒に寝てしまうこともしばしば。正直、夜には心底クタクタになっている。残業が多い夫も、深夜に帰宅してビールを飲むと、どっと眠気が押し寄せるのが常だ。夫婦仲は良いが、確率が高い日、とはいえず、そこからセックスという流れに、どうしてもしないことが続いたという。

性交を伴わない妊活法が広がっている。シリンジ法は、精子の洗浄、濃縮等を行う人工授精と違い、精液をそのまま膈内に注入する、自宅ですることができる性交の代替手段だ



妊活の負担減らす「シリンジ法」が静かなブーム セックスせず に妊娠したい

今、セックスを伴わない妊活が広がっている。本格的な不妊治療を始める前のステップとして、専用器具を用いて家庭でできる妊活だ。共働き世帯の増加や不妊治療の浸透とともに変化する、イマドキの妊活に迫った。

フリーランス記者 松岡かすみ

小児がんと親

森保Jアジア杯の教訓
セックスしない妊活

土屋太鳳×佐久間大介
幽☆遊☆白書、ONE PIECE

AERA

'24.2.19 No.7
アエラ 定価 470円



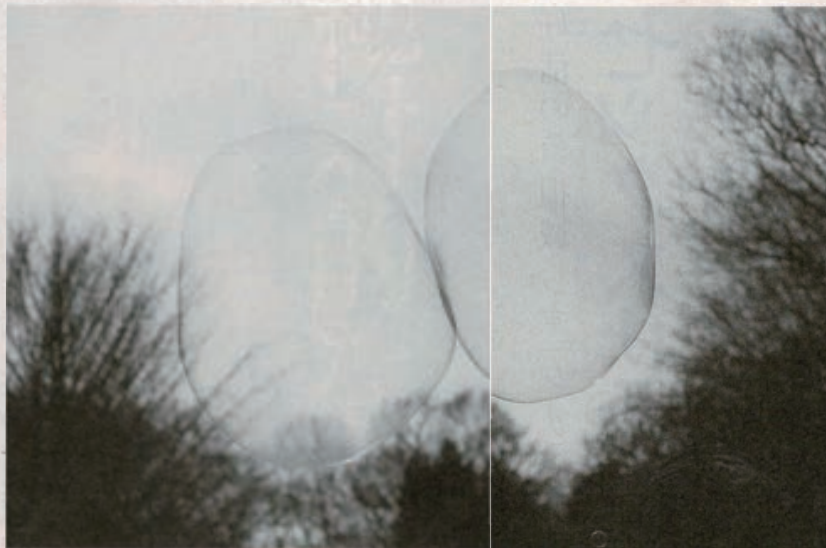
【巻頭特集】
がんで
仕事を
やめない

アーティスト
新しい学校のリーダーズ

射器)を用いて、精液を膣内に注入する方法。注射器の針の部分が、適度に柔らかく弾力性のあるシリコン製のカテーテルになっており、容器に採取した精液を吸い上げて、膣内に注入する。友人はタイミング法と合わせてこのシリンジ法を試し、妊娠を始めて1年ほどで妊娠したという。

妊娠の確率が同じなら ストレスない方がいい

友人がシリンジ法を知ったのは、通っていた不妊治療クリニックから聞いたことがきっかけだった。タイミング法のプレッシャーを和らげるための代替手段として、医師から紹介されたのがシリンジ法だ。医師は「専用の器具がなかった頃は、弁など添えるプラスチック製のしゅうゆ入れを使うよう提案していた時代もある」と話し、



タイミングが取れない、性交にストレスがある、育児で時間が取りにくいなど、シリンジ法に至る過程にはさまざまな葛藤がある

シリンジ法は「セックスと同程度の妊娠率がある」と説明したという。半信半疑で試し始めた友人だったが、その手軽さですっかり味をしめ、だんだんとシリンジ法が妊娠の主流になっていった。女性は「めちゃくちゃオススメ」という友人の言葉を受け、ネットでシリンジキットを購入し、排卵日付近に試し始めたのだ。

手順としては、別室で夫がマスターベーションで射精した精液を容器に入れ、シリンジを使って吸い上げる。女性は寝室で夫が精液を持つてくるのを待つ。シリンジの注入は夫にしてみてもうこともあれば、タンポンを入れる要領で、自分で行うこともある。

最初のうちは、あまりに無機質で淡々とした手順に、「これでいいのかな」という気持ちもあったという。妊娠は性交の先にあるべきものという感覚があったからだ。だがシリンジ法を試す

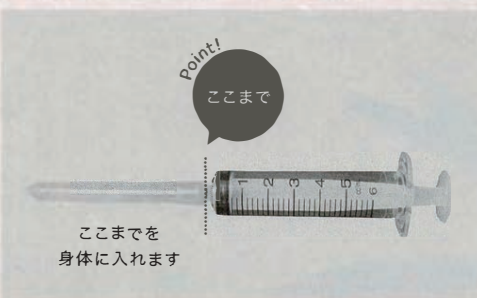
うちに、「確率が同じなら、ストレスなくできる方がいい」と思うようになった。

「平日はワンオペ育児と仕事で、毎日へへと。夫も仕事が忙しくて、夫婦ともに2人目が欲しいと思っても、排卵に合わせてセックスするのが正直しんどかった。共働き時代の今、そういう夫婦って結構多いんじゃないかな。シリンジ法は、その負担やプレッシャーをぐっと減らしながら妊娠できて、本当に救われる。時代に合った妊娠のスタイルだと思う」(女性)

月に2千万円の売り上げ メーカーも「予想以上」

晩婚化、晩産化が加速する昨今、不妊治療が広く浸透して久しい。厚生労働省の人口動態統計によれば、2020年の日本の平均初婚年齢は男性が31.0歳、女性が29.4歳。結婚から数年経ち、「そろそろ子どもを」と考え始める年齢が30代半ば以降ということも少なくない。さらに、国立社会保障・人口問題研究所の「21年社会保障・人口問題基本調査」によれば、不妊を心配したことがある夫婦は39.2%、夫婦全体の約2.6組に1組に上る。

出のシリンジ法は、主に①のタイミング法に沿って行われる方法で、「妊娠の確率が高い日にタイミングが取れない」「射精までうまくいかない」「セックスがしんどい」などの理由による性交に代わる手段として、ここ数年でわりと広がり始めている。「まさかここまで売れるとは、というのが正直な感想です」



ここまでを身体に入れます

シリンジ法専用キット。写真提供：オンリススタイル

「予想以上の反響で驚いています。現在、ネット販売を中心にクリニックにも卸しています。利用者は30代のカップルが中心。妊娠Ⅱ性交ありき、という考えが強いとシリンジ法に後ろめたさを感じる方もいると思いますが、一度使ってみると、こんなに楽に妊娠できるなんてトリビーターになる方が多い。妊娠中の方に広く知られる商品に成長する中で、明確にニーズが存在することを実感しています」(片桐さん)

「性行為が苦手だが、妊娠はしたい」「自宅で性交に代わって妊娠できる手段があれば」という需要が存在すると察し、「一般医療機器として独自に商品を開発。痛みを感じやすい人でも使用しやすいよう、サイズや質感にこだわった。

価格は10回分(10本)のセット販売で税込み6700円。なお、不妊治療クリニックなどで行われる人工授精は22年4月から保険適用になり、1回約1万5千円前後が一般的だ。同社の商品は、発売後、順調に売り上げがアップし、2年前からはひと月で約2千万円を売り上げるようになった。好調な市場に目をつけ、ここ数年で競合メー

キットを販売するところも出てきた。プライベートケアクリニック東京の東京院長で、男性不妊に詳しい泌尿器科医の小堀善友医師は言う。「性交とシリンジ法は、妊娠率が同程度というところもあり、セックスに悩みのあるカップルには、積極的にシリンジ法を勧めています。実際、セックスがうまくいかずに悩んでいたカップルが、シリンジ法を試して1カ月で妊娠した例もあります」

セックスにこだわると 妊娠から遠ざかりかねない

近年増加傾向なのが、マスターベーションでは射精できるが、膣内では射精ができない「膣内射精障害」と呼ばれる状態だとい、男性不妊の原因の7%を占める。膣内射精障害を含む性機能障害は、1996年と比較すると4倍以上に増えており、現在多くの男性が不妊の原因として悩んでいる。「相手を前に、排卵日だから成功させねばというプレッシャーを感じて、射精までたどり着かないジレンマを抱えている人は多い。膣内射精障害の治療は、それなりに時間を要するため、35歳を超えて妊娠出産を望んでいる場合、セックスにこだわらない手段を提案することが多い。セックスにこだわること、逆に妊娠出産から遠ざかりかねないためです」(小堀医師)

筆者がシリンジ法を知ったのは、長年にわたる不妊治療を経て、数年前に出産を諦めた、ある40代の女性の言葉

がきっかけだった。女性はタイミング法を続けていた30代の頃、仕事で疲れて「今日ではできない」という夫を前に、「お願いだからしてください」と土下座したことがある。夫婦間で、不妊治療に対する感覚の違いを感じ、それに対するストレスも募った。そこで夫婦二人の生活を築き直そうと、明るく前を向いている女性だが、「妊娠中にシリンジ法みたいなものがあれば通っていたかも。今の人がうらやましい」と話す言葉には、いろんな思いが詰まっているように聞こえた。

「シリンジ法が静かなブームとして広がっているのは、セックスにこだわらない妊娠スタイルから、少しずつシフトしてきている証だと感じます」

こう話すのは、生殖補助医療に詳しい生殖工学博士で、プリンセスバンクの香山則子さん。子どもを望む仲の良い夫婦でも、セックスに積極的ではない傾向は決して珍しくないという。「以前は、子どもをつくる＝愛のあるセックスでなければ、という感覚が強かったと思いますが、今は違う。不妊治療の広がりもあって、セックスを頑張るすきない妊娠のスタイルが定着してきています。シリンジ法は、本格的な不妊治療を始める前のステップとして、よりスタンダードになっていくのではないのでしょうか」(香山さん)

手軽さにひかれてリビーターする人もいれば、切実な悩みを抱えてたり着く人もいます。表立って語られることが少ない妊娠の実態から、変わりゆく時代が垣間見えたように感じた。